

企業名： 三機工業

レポート名： SANKI REPORT 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

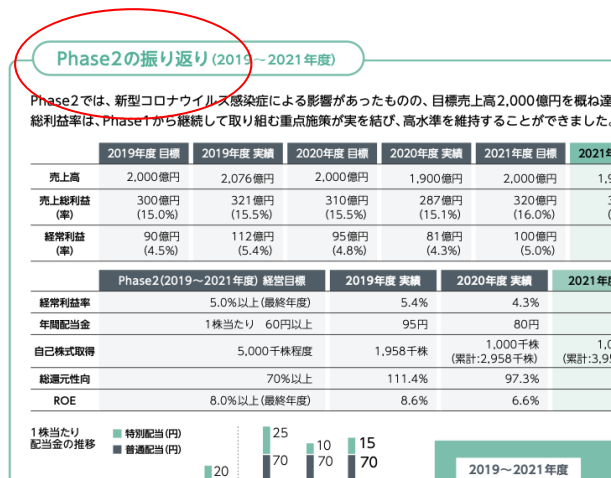
非常に理解しやすいと感じた。その理由を、報告書の構成や内容から説明する。SANKI REPORT 2022 を読むと、初めに三機工業グループの理念が書かれている。「カイトキをカタチに。」というキャッチフレーズで惹きつけるだけでなく、その横にわかりやすい文章で、簡潔かつ具体的に説明があることで非常に理解しやすい。その後で三機工業の歴史が説明されたあと、今後のビジョンについての説明へと続く構成になっている。これは、今までの事業をより発展させ、より良いものにしていくという姿勢を感じさせる構成であり、読み手に今後の発展を期待させられる点で非常に良いと感じた。右の写真から分かるように、目を引く「2050」という数字があることで、三機工業が具体的にどのくらいの未来を想定しているのかがわかる。ぼんやりとしたなんとなくの目標ではないという印象を受けた。



ここでは『「選ばれ続けれる三機へ!」』と書かれており、抽象的な説明にとどまっているようにも感じられるが、その後で、事業の説明、財務状況などを説明し、社長の社長のメッセージの後に、図などを用いて今後の取り組みや目指す姿を具体的に説明している。また、今後の方針が、「Century 2025」と呼ばれる 2016 年に始まった長期ビジョンの一環であることが示されている。単に今後の方針を述べるだけでなく、これまでの

取り組みの総括をも掲載する(左の写真がその一部である)ことで、これまでの取り組みがどのようになされ、そしてどのように今後につながっていくのかが理解しやすい。

全体を通して、わかりやすい文言や大きい文字で惹きつけながらも、単に理想だけを語るのではなくしっかりと具体性をもった将来のビジョンが説明されており、三機工業の目指す将来の



姿が非常に理解しやすかった。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

SANKI REPORT 2022 の 31 ページから 33 ページにかけて特集として書かれている三つの取り組みの内容から三機工業の競争優位性を伺うことができる。カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みは、地球温暖化問題やエネルギー問題といった全世界で立ち向かわなければならない課題の解決に寄与していると考えられ、三つの取り組みのなかでも最も社会において価値をもつものだと感じられた。その取り組みの内容は、具体的な数字を用いており、専門的知識に乏しかったとしても理解しやすくなっている。右の写真にあるように、SDGs のマークを用いているという点も、三機工業の取り組みがどのような課題の解決に貢献しているのかをわかりやすくさせている。



3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できると感じた。1 や 2 の項目でも説明したが、「2050」という目指すべき未来が具体的に示されていることでその競争優位性に持続性があることを感じさせる。

さらに、報告書のなかで繰り返し使われていたのが「サステナビリティ」という言葉である。報告書の中で最も長くページを使っているのが、44 ページから 89 ページにかけての「サステナビリティ経営の基盤」の説明である。そこでは 2021 年のサステナブル経営のための取り組みの振り返りがなされていたり、今後の取り組みを「環境」「サプライチェーン」「人材」など、項目ごとに解説していたりする。これらこそ、まさに三機工業の競争優位性を支えている見えざる資産なのだ。そしてそれらが長くページを利用しながら具体的に説明されていることで、2 の項目で説明した三機工業の対立優位性に持続性があることが感じられた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

自分は三機工業で自分の持つ人的資本の価値を向上させられると感じた。先ほどの項目にも出てきたが、「サステナビリティ経営の基盤」の説明の中に「人材」のトピックがあった。そこでは三機工業の従業員に対する考え方が書かれており、労働環境や従業員の労働状況の変

		2017年度			2018年度			2019年度		
		男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
育児休業(名)	連結	2	18	20	7	11	18	9	27	54
	単体	2	14	16	7	9	16	7	24	47
育児休業復職率(%)	連結	100.0	100.0	100.0	100.0	88.9	93.8	100	96.3	99.7
	単体	100.0	100.0	100.0	100.0	88.9	93.8	100	100	94.3
介護休業(名)	連結	0	0	0	1	0	1	1	1	3
	単体	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有給休暇取得率(%)	連結	—	—	—	54.0	76.1	57.1	54.3	76.3	65.2
	単体	49.9	78.2	53.7	53.0	74.2	55.9	51.9	74.4	64.5
月平均時間外労働時間(時間/人)	連結	—	—	—	—	—	—	37.4	14.7	26.1
	単体	31.2	13.3	28.6	35.0	14.7	32.0	34.5	13.6	24.3

	2017年度			2018年度			2019年度		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
連結	1,011	1,011	2,022	1,011	1,011	2,022	1,011	1,011	2,022
単体	1,011	1,011	2,022	1,011	1,011	2,022	1,011	1,011	2,022

化を、右の写真のように具体的な数字の推移を用いながら示している。数字の推移も、前年度との比較に留まらず、2017年度の数値から示している点で、その推移がより明確にわかる。また、私が最も惹かれたのは、女性の活躍を推進するための取り組みだ。2026年までの行動計画と、その現状がはっきりと書かれており、それに向けた取り組みがしっかりと進められていることがわかる。充実した教育研修制度や、ワークライフバランスの推進などについても取り組みがなされており、ただ理想を述べるだけでなく実際にその取り組みをおこなっていることが報告書からわかり、人的資本の価値向上を達成できると感じた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

先の項目でも出てきたが、図や数字、抽象的なフレーズを用いることで読みやすい報告書になるように工夫している部分と、具体的に細かい字で丁寧に説明している部分とのメリハリがあり、レポートの初めから終わりに向けてだんだんと内容が深くなっていくことで、私のような専門的知識の少ない人でも理解しやすかった点が良かったと思う。ストーリーにまとめてありながらも、中身のある内容で非常に良いと思われる。

2022年6月時点では当社単

、各部署とのマッチングや、その定着を目指して聴覚障が管理職の理解促進を目的と災害時に聴覚障がい者に避研修や決算説明会の字幕付きの整備を推進しています。



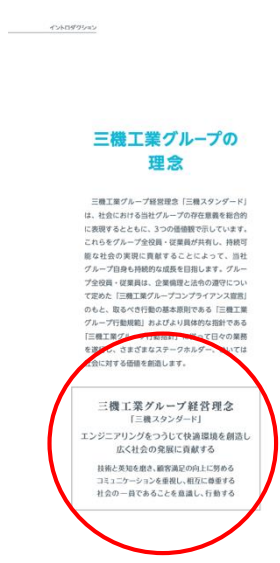
文字起こしアプリを使用した研修

2022年6月時点
障がい者雇用率(単体)

2.24%

どのページにおいても数字は目立つように大きく書かれている↑

改善の余地は全体的にあまりないよう感じたが、あえて挙げるとするならば、三機工業グループの経営理念である「三機スタンダード」をもう少しアピールしても良いように感じた。「三機スタンダード」を基盤に据えているということについては他のページでも何度か言及



されているものの、具体的にそれを説明しているのは左の写真の赤丸の部分だけである。この「三機スタンダード」が全ての取り組みや目標の土台となっていることを考えると、「カイトキをカタチに」という抽象的なキャッチコピーだけでなく、具体的な説明ももう少し目立たせて良いように感じる。

<参考>

SANKI REPORT 2022

https://www.sanki.co.jp/report/doc/index_report2022_01.pdf (2023年7月28日最終閲覧)